

2020 年度(令和2年度)学校評価自己評価表

一ツ橋中学校区	校番 25	福山市立一ツ橋中学校
最終更新日		2021年(令和3年)2月10日

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 めざす子ども像の実現に向け、授業改善が進んでいることがよく分かった。各学校とも児童生徒が積極的に授業に参加しようとする態度が見られるようになった。	児童生徒の現状 授業改善により、児童生徒が自ら学ぼうとする意欲の向上が見られ、授業満足度は向上傾向にある。小中合同音楽発表会等の行事も定着し、中1ギャップは解消されつつあるが、小学校で不登校傾向の児童が中学校で不登校状態にあり、指導に苦慮している。	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	「課題解決力」「論理的な思考力」「主体性・積極性」「コミュニケーション力」 ・自分にあった課題が設定でき、解決過程での体験や結果を生活や学習に生かしている。 ・根拠を明らかにし、筋道を立てて考えながら、過程や結果をまとめたり、説明したりすることができる。 ・さまざまな集団の中で、自己の役割を意識し、積極的に活動しようとしている。 ・友達との交流を大切に、相手の話をよく聞いたり、考えを受け止めたりして、お互いの存在や立場を尊重しようとしている。 一ツ橋中学校区小中一貫教育推進デザインを基盤とした取り組みにより「知・徳・体」の育成をめざす。 小中合同行事と小中合同の「自ら考え学ぶ授業」を実践するための研究授業を通して、全ての児童生徒が主体的に学ぶことができる学校をめざす。
--	---	---	--

III 自校

ミッション 燃えたぎる一ツ橋中魂(心に太陽・情熱と躍動)で、大地を踏まえ大空に向かって羽ばたく人間の育成	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) 中期 めざす子ども像 後期	「課題解決力」 「論理的な思考力」 「主体性・積極性」 「コミュニケーション力」	「交流できる力」のある生徒) 友達との交流を大切に、相手の話を聞いたり、考えを受け止めたりしている
学校教育目標 自ら輝く、ともに輝く	中期 めざす子ども像 後期	「見つける力」のある生徒) 自分にあった課題が設定でき、その課題を解決しようとしている	「やりきる力」のある生徒) 学級の集団の中で、自己の役割を意識し、積極的に活動しようとしている
現状 <生徒> 授業改善等の取組により、授業が分かると感じる生徒は約95%にのぼるが、思考力・判断力を問う定期テストの設問通過率は約30%と伸び悩んでいる。また、学校が楽しいと感じる生徒は約91%であり、学校満足度は向上している。学校生活の満足度に比べ、主体的に学ぶ意欲が伸び悩んでいる傾向がみられ、教育活動全体を通して生徒を主役にする必要がある。 <授業> それぞれの教員が、授業改善の「めあて」を持ち取り組んだ結果、「授業で考えることが面白い」と感じる生徒が約85%となり、授業が活性化している。教師がファシリテーター役を果たし、生徒が思考を広げる授業を目指しているが、教員自身が生徒の意見を引き出し切れていないと感じていることが課題である。	後期 研究 めざす授業の姿	「説明できる力」のある生徒) 根拠を明らかにし、筋道を立てて考えることができる	さまざまな集団の中で、自己の役割を意識し、積極的に活動しようとしている 友達との交流を大切に、相手の話をよく聞いたり、考えを受け止めたりして、お互いの存在や立場を尊重しようとしている
	教科等 主題・内容等	総合的な学習の時間 教師が教え込む授業から、「子どもたちが自ら考え学ぶ授業」への転換～生徒が主役になる授業づくりを通して～	
	めざす授業の姿	・教師が教える場面を3割、生徒が思考・活動する場面を7割の授業 ・教師がファシリテーターとして機能している授業 ・テキスト、仲間、自分との対話のある授業	

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立一ツ橋中学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る取組状況	70% 達成 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	70% 達成 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
3	自ら考え学ぶ授業の推進	★	継続	<ul style="list-style-type: none"> 「シンプル」「シェア」「ビジュアル」の要素がある授業を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員一人一人が自ら考え学ぶ授業のイメージを持ち、そのイメージをめざして指導と評価に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 選抜Ⅱを意識して作成した定期テストにおいて各教科平均点65点以上。あるいは、単元等におけるパフォーマンス評価を通して、授業満足度90%以上。 	<input type="checkbox"/> 選抜Ⅱを意識して作成した定期テストにおいて平均点62.6点。 <input type="checkbox"/> 授業満足度82.8%。 <ul style="list-style-type: none"> 「自ら考え学ぶ」授業づくりに向けて研修を行い、課題とめざす姿を共有した。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 研修などにおいて、各教員の「シンプル」「シェア」「ビジュアル」を再確認・設定し、授業に活用していく。 	<input type="checkbox"/> 選抜Ⅱを意識して作成した定期テストにおいて平均点61.7点。 <input type="checkbox"/> 授業満足度63.4%。 ◎学期ごとに個々の教職員のイメージを具体化できた。教職員アンケート関係3項目平均70.6%。	3	2	3	<ul style="list-style-type: none"> 研修などを活用し、各教員の具体的な「目指す授業の姿」を明確にする。 互いの授業参観を積極的に行い、授業実践を交流し、授業力を向上する。
3	自己指導能力を育む教育活動の推進		継続	<ul style="list-style-type: none"> めざす子供像の視点で、学校行事、生徒会活動を企画・実施・評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合ポイント制度、グッドナイスカード表彰活動を実施。 通級指導教室、ひまわり、特支学級を活用した居場所づくり。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校でみんなと一緒に活動するのは楽しいと感じる生徒90%以上。 不登校生徒全校生徒の8.5%未満。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合ポイント制度に関わる取組を12項目実施した。 □「学校が楽しい」と感じている生徒88.6%。 □不登校生徒1%。 自分で考えてひまわりを活用する生徒が増え、居場所づくりができています。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 縦割りでの項目を追加していく。 グッド&ナイスカードの活用を更に進める。 保護者や関係機関との連携、すららネットの活用等を推進する。 	<input type="checkbox"/> 2学期、総合ポイント制度に関わる取組を7項目実施した。 <input type="checkbox"/> 「学校が楽しい」と感じている生徒88.6%。 <input type="checkbox"/> 不登校生徒1.7%。 ◎コロナ禍で行事を見直し、「何のためにするのか」「どうすればできるか」を視点に工夫できた。	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会を中心に総合ポイント制度やグッド&ナイスカードの取組や意義を説明する機会を設ける。 学活や総合的な学習の時間を活用し、仲間づくりや自己を見つめる視点を授業内容に取り入れ自己指導能力の向上を図る。

7	子ども主体の健康・体力づくりの推進	継続	<ul style="list-style-type: none"> 前年度より新体力テストの結果向上、給食残食率の低下。 	<ul style="list-style-type: none"> 月1回の部活動優先日の実施。 ロスノン運動の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 新体力テストで県平均以上の種目を60%以上 給食の残食率7%以下 	<ul style="list-style-type: none"> 全職員が参加し、部活動の指導を重点的に行う日を増やしている。 <p>□新体力テストで県平均以上の種目は50%を下回っている。</p> <p>□残食率が昨年の9.2%から4.6%へと半減し改善した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ロスノン活動の充実を図っている。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 体育の種目と関連させ、項目を重点化したトレーニングを行う。 委員会活動をさらに活性化しロスノン運動に取り組ませる。 	<p>□持久力を中心に必要な体力を焦点化したトレーニングや行事を行い、能力の向上につなげることができた。</p> <p>□10,11月に残食調べを行い各学級で重点的に呼びかけた。栄養教諭と連携し、完食シールや賞状など、成果が可視化される工夫を行い、意欲を高めた。</p> <p>◎個々の体力を向上させた。残食率は2学期も4.9%であり、昨年度から大きく低下させることができた。</p>	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 合同練習日の設定や顧問の意識づけのための理論研修などの機会を設定する。 給食準備時間の短縮に向けて、給食当番を中心に工夫させ、給食をきちんと食べるための時間を確保する。
1	能動的・革新的な教育の質の向上	新規	<ul style="list-style-type: none"> SDGsの視点で総合的な学習の時間を改善する。 業務を精選する。 	<ul style="list-style-type: none"> SDGsゴールの設定。 学校施設時間18:30の実行。 	<ul style="list-style-type: none"> SDGs目標8「働きがいも経済成長も」をゴールとするキャリア教育の実施。 時間外勤務平均45時間以内。 教職員アンケート「仕事に充実感を感じる」を90%以上。 	<p>□3年進路探求学習でSDGs目標8「働きがいも経済成長も」を意識した学びができた。</p> <p>□時間外勤務平均32時間。</p> <p>□「仕事に充実感を感じる」を93%。</p>	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 学期や学年を貫くSDGsゴールを設定し、課題設定を見直す。 会議の内容を事前に確認し、効率よく行う。 業務をカバーし合える風土を大事にする。 	<p>□キャリア教育について外部講師を積極的に招聘し、学びを深めた。</p> <p>□時間外勤務平均34時間。</p> <p>□「仕事に充実感を感じる」89%。</p> <p>◎SDGsの視点での改善がスタートした。今後も引き続き研修し、改善する。</p>	4	3	4	<ul style="list-style-type: none"> 行事をふくめ、総合的な学習のカリキュラムをさらに改善する。 教職員一人ひとりの業務改善の工夫や特性を生かした取り組みの交流の場を設定し、日常での実践につなぐ。

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。